

「鮮卑」「室韋」および「尼魯温蒙古」の原意をめぐる新しい解釈  
—モンゴル起源論を兼ねて—

ボヤンデレゲル（宝音徳力根）  
（中国、呼和浩特、内蒙古大学）

いわゆる「鮮卑史」なるものは三国時代の魏人王濬によってはじめて書かれたといわれているが、実際、王濬の記述も『史記—匈奴列伝』にもとづくものであり、それが原因で長い間人々は、漢代以前の史料に「鮮卑」なる文字が現れることに対して理解できずに来たと考えられる。「鮮卑」という文字は『楚辞·大招』でも現れており、2011年に湖北省随州の葉家山で発見された西周初期の墓からは、紀元前 1040 年ころに周成王が、音意的に「鮮卑」に近いと思われる人々と会盟したことが記されており、それが正しいなら今から約 3000 年前のことになる。

本報告では、中国の古い漢籍の記録や近年の発見などを手掛かりに「鮮卑」や「室韋」の音意を探り、それと「尼魯温蒙古」との関係からモンゴルの起源について若干の意見を述べたい。